

平成23年度
小牧市外部評価結果報告書

平成23年11月11日
小牧市外部評価委員会

目 次

I	はじめに	1
II	外部評価の概要	2
1	外部評価の趣旨	2
2	小牧市外部評価委員会	2
3	評価体制	2
4	評価対象事業	3
5	評価の流れ	3
6	評価結果の活用	3
7	会議等開催経過	4
III	外部評価の総括コメント	7
IV	外部評価結果	11
1	模擬外部評価結果	11
2	行政評価市民公開フォーラム結果	15

I はじめに

現在、日本経済はグローバル化の中で、世界経済の景気後退や急激な円高など、激しい変化に見舞われています。さらに、今年発生した大地震や豪雨などの自然災害、原発事故などの危機は、日本経済に大きな影響を与えています。小牧市も多くの製造業を抱え、これらの危機や円高などの影響もあり、これまでのような安定した収益が得られるかは中長期的には不透明です。また、急速に進む少子高齢化や多様化する住民ニーズ、地方分権の進展などに対し、機動的かつ的確に対応していく必要があり、地方自治体が果たす役割は、以前より増して大きくなってきています。

また、同時に公共サービスはこれまでのように行政が担うだけではなく、市民が自らの地域を良くするには自らが活動を通じて担い手にならざるをえない時代になってきました。このため、市民と行政の協働が特に重要になってきています。

このような中、現在提供されている行政サービスについては、これまでのように行政内部の自己評価に留まることなく、外部からの第三者の意見を取り入れながら、事業の改善を図ることが求められています。今回私たちが行った外部評価の手法はその改革の第一歩と言えましょう。

しかし、今回の外部評価は、小牧市にとって初めての試みであり、総括コメントで記載をしたとおり、様々な問題点がありました。このため、今後この外部評価の実施手法については、改めて見直しを行うとともに、この取組みを契機に、さらなる事業の改善に繋げていくことが必要であると思います。

従来から継続してきた事務事業については、担当課は熱意と意欲を持って取り組んでいるものと推察されますが、市民が行政に対し求めることや社会的、経済的環境は常に変化していることを踏まえ、事業推進にあたって「最少のコストで最大の効果を追求する」という効率性を追求すると同時に成果の向上のための改善方法についても、常に考えながら仕事に取り組むことを今後期待します。そのためには事業の再編成、統合、民営化、市民協働、あるいは終期を決めたサンセット方式の導入など、様々な手法を研究し導入することも必要でしょう。

市は、この外部評価において出された委員の判定やアンケート調査からの意見を真摯に受け止め、今後の市政運営に役立てていただき、厳しい条件の下、質の高い行政サービスの提供を積極的に推進していただくことを期待します。

平成23年11月11日

小牧市外部評価委員会
委員長 武 長 脩 行

II 外部評価の概要

1 外部評価の趣旨

厳しい経済情勢が続く中、各自治体は限られた財源をより効率的・効果的に活用し、多様化する住民ニーズや社会経済情勢の変化などに機動的かつ的確に 대응していく必要があります。

このことから、市が実施している事業について、「実施する妥当性があるのか」、「市が実施主体となることがふさわしいのか」、「実施方法が効率的・効果的であるのか」等の評価視点を基に、改めて事業のあり方を検証するため、外部評価委員会において外部評価を実施しました。

ただし、今回の外部評価は、他の自治体で実施されている事業仕分けのように、財源捻出を主目的としたものとは異なり、事業の充実や改善など建設的な提案を含めた評価にすることを念頭に実施しました。

また、市としては、議論された内容を含め導き出された評価結果等を参考に、今後の事業のあり方について再度検討し、資源の有効活用を進めていただくものであります。

2 小牧市外部評価委員会

小牧市外部評価委員会は、次の委員（学識経験者2名、NPO関係者2名、企業経営者2名、公募市民4名）により構成されています。

(敬称略)

氏名	所属団体、役職等	班区分
武長 脩行 ◎	椛山女学園大学 文化情報学部 教授	A班
松田 敏弘 ○	(特)こまき市民活動ネットワーク 代表理事	
松浦 秀則	あおい交通株式会社 代表取締役社長	
東本 香織	市民公募委員	
原 正行	市民公募委員	
萩原 聡央	名古屋経済大学 法学部 准教授	B班
末松 雅彦	(特)こまき市民活動ネットワーク 副代表理事	
廣野 友巳	デリカ食品工業株式会社 代表取締役社長	
石井 玲子	市民公募委員	
沖本 進	市民公募委員	

◎委員長 ○委員長職務代理

3 評価体制

評価委員5人、進行役であるコーディネーター1人で1班を編成し、2班体制で実施しました。

《コーディネーター》

A班	合同会社アスト・コンサルティング	中澤 政直
B班	合同会社アスト・コンサルティング	佐原 啓泰

4 評価対象事業

平成 23 年度の対象事業 436 事業から、次の選定基準をもとに市内部（事務局及び行政評価委員会）において絞り込みがされた 40 事業が、第 1 回外部評価委員会において提示され、委員の希望により評価対象事業 24 事業（模擬外部評価 4 事業、行政評価市民公開フォーラム 20 事業）を選定しました。

【選定基準】

- ① 予算事業（事務事業評価対象事業）
- ② 市の裁量の余地がある事業
- ③ 事業開始から 3 年以上経過した事業
- ④ 平成 24 年度以降も継続して実施する事業
- ⑤ 外部の視点からの議論が有意義であると考えられる事業

5 評価の流れ

1 事業あたり、40 分から 50 分の時間の中で、事業担当課から、事業シートを基に事業説明を受け、その後、質疑・応答を経て、次の A～E の判定区分により事業の判定を行いました。

【判定区分】

- A：現状維持又は充実（市が実施）
- B：改善が必要（市が実施）
- C：民間委託等の検討（市が実施）
- D：民間が実施
- E：廃止

なお、判定については、A～E の 5 つの判定区分のうち、5 人の評価委員の多数決で一番多い判定を評価結果にするなど、いずれかに絞り込まず、各委員により出された判定を、そのまま評価結果としました。

6 評価結果の活用

行政評価市民公開フォーラムにより導き出された判定は、市の最終決定としていただくのではなく、議論された内容等を含め今後のあり方について十分に精査・検討を行ったうえで、市としての今後の方針を決定し、次年度以降の予算編成や事業計画への反映に努めていただくものであります。

7 会議等開催経過

●第1回外部評価委員会

平成23年8月19日（金）午前9時～正午

【会議内容】

- ・ 委嘱状の交付（外部評価委員の委嘱）
- ・ 外部評価実施方針、スケジュールについて説明
- ・ 行政評価研修（行政評価の基礎的な部分から、外部評価の意義等について説明）
- ・ 議事：(1) 委員長の選任

委員長に武長委員を選任し、委員長職務代理には松田委員が指名されました。

(2) 会議公開について

第1回外部評価委員会の会議録および第2回外部評価委員会の会議および会議録を公開することを決定しました。

(3) 外部評価対象事業の選定について

事務局から、外部評価対象候補事業40事業の説明を受けました。



●模擬外部評価

評価の進め方の確認など本番に向けた事前準備の一環として、各班2事業ずつ模擬評価を実施しました。なお、模擬評価は、外部評価対象事業担当課の事前準備も目的の一つとしていたため、該当職員のみ傍聴可能としました。

- ・ A班 平成23年9月16日（金） 午後1時30分～午後4時45分

【対象事業】

	事業名	課名
1	市民四季の森バラ・アジサイまつり開催事業	みどり公園課
2	防災訓練実施事業	防災課



- ・ B班 平成23年9月30日（金） 午前9時～正午

【対象事業】

	事業名	課名
3	市政情報発信事業	秘書広報課
4	花修景推進事業	みどり公園課



模擬評価終了後においては、模擬評価により判明した問題点等の整理の時間をとり、外部評価委員、コーディネーター、事務局により意見交換等を行いました。

●行政評価市民公開フォーラム

平成 23 年 10 月 8 日（土）・9 日（日）午前 10 時～午後 4 時

模擬評価と同様に、2 班体制で、各班 1 日 5 事業の評価を実施し、2 日間で計 20 事業の評価を行いました。

10 月 8 日（土）

A 班			B 班		
	事業名	課名		事業名	課名
1	敬老会等運営事業	長寿介護課	6	緑化推進事業	みどり公園課
2	寿学園運営事業	長寿介護課	7	県管理道路植栽管理委託事業	道路課
3	平成夏まつり支援事業	生活交流課	8	出産奨励手当支給事業	子育て支援課
4	保健衛生団体助成事業	保健センター	9	農業体験事業	農政課
5	市民憲章推進事業	生活交流課	10	観光行事開催委託事業	商工課



10 月 9 日（日）

A 班			B 班		
	事業名	課名		事業名	課名
11	広報等作成事業	秘書広報課	16	防犯対策事業	交通防犯課
12	IT教育推進事業（小・中学校）	庶務課	17	外国人児童生徒教育推進事業	学校教育課
13	新エネルギー導入助成事業	環境対策課	18	特色ある学校づくり推進事業	学校教育課
14	市民大学こまきみらい塾運営事業	まなび創造館	19	ごみ排出抑制事業	廃棄物対策課
15	自主防災体制整備事業	防災課	20	自主文化事業	文化振興課



● 第2回外部評価委員会

平成23年10月24日（月）午前9時30分～正午

【会議内容】

- ・議事：(1) 外部評価結果報告書について

模擬外部評価を含めた24事業の評価について、各委員より出された判定理由・改善案について、再度確認等を行うとともに、外部評価委員会としての意見のとりまとめをしました。

Ⅲ 外部評価の総括コメント

(1) 配布資料について

配布された事業シートは、おおむね事業内容がわかる程度の記載がされていたが、中には、詳しい事業内容や直接経費の内訳が不足しているもの、わかりにくいものもあったため、補助的な資料の添付も含め記載内容を充実するとともに平易な表現に心がけていただきたい。

また、担当課として、事業の必要性や費用対効果、強調したい狙いを資料の前面に打ち出すことにより、評価者側にとっても分かりやすく、掘り下げた質問・議論を引き出すことができると思われる。

(2) 説明者の説明・応答について

説明者の説明及び質問に対する応答については、およそ適当な内容であった。しかし、一部で評価者の質問に対し明確な回答がされなかったり、言い訳に終始するなど、職員の勉強不足がうかがえる場面があった。担当課は、担当業務に対する市民からの質問にいつでも明確に答えられるように事業内容を十分に把握しておく必要がある。これは、今回の評価対象事業の担当課のみではなく全庁的に取り組んでいただきたい。

また、説明時に資料に掲載されていない内容や数字に触れる場合は、当日に補足資料を配布していただきたい。

(3) 1事業の時間配分について

今回の行政評価市民公開フォーラムでは、議論の深まり具合によって1事業、40分～50分で実施をしたが、事業内容によっては50分でも短い事業があった。今回よりも、より深い議論をし、評価委員から提案するような場とするのであれば、事業説明及び質疑応答の時間を増やすなどを検討していただきたい。

(4) 行政評価市民公開フォーラムの継続について

市民と行政とのコミュニケーションは重要であり、行政評価市民公開フォーラム

を通じて、市が実施している事業内容を広く市民に説明する意義は大きい。また、市職員に緊張感をもって行政推進にあたってもらうためにも、今後も継続していただきたい。

ただし、より効果のある外部評価となるように対象事業の選定や開催頻度、運営手法などについて検討していただくとともに、公開することの意味や実施する目的をさらに精査し、行事の一つとして終わらないように努めていただきたい。

(5) 外部評価にあたって感じたこと

(事業選定について)

- ・行政評価対象事業の選定において、市民からの意見を反映させる、つまり市民の目線を見た場合、どのような事業を評価してもらいたいのかという意見を反映させるようなシステムを構築してもらえれば良いと思う。(アンケート調査でも、インターネットによる意見集約でも良い。)
- ・外部評価を公開するにあたり、市民が興味を持ってそうな事業に絞ることも今後、考える必要があるかもしれない。まず、市民に興味を持ってもらえれば、「市民の知る権利」を訴えることができ、ポイントを提供できると思う。
- ・評価対象の選定につき、再検討していただきたい。選定過程には、評価委員の討議の場を設けるのも一つの案だと思う。

(開催周知について)

- ・市民全体の関心を高めるため、フォーラムの開催自体、内容、委員構成、日程等について、もう少し早い時期から広報等でより広く周知する必要があると思う。
- ・フォーラムについて、参加者が少ないという指摘もあったように、多くの市民の方に参加していただけるよう、周知方法を見直すとともに、周知の拡充を図っていくことが望まれる。
- ・外部評価は意義のある事業と思うが、市民の参加が少なかったのは少しがっかりした。でも、職員の参加も多く、何らかの意識改革につながったのではと思う。評価委員としての参加に意義があり、良かったと感謝している。

(事前準備について)

- ・事前に全事業とまでは言わないが、関連する事業の一覧をいただければ、評価対象事業との関連が分かり、意見もよりの確に申し上げられる。
- ・評価対象の事業と類似的な機能を持つ事業、あるいは同じ目的を持つ事業の情報も提供し、それらと比較しながら対象事業の評価ができるようにしてはどうか。
- ・事前に資料提供と概要説明の機会をいただき、調査、勉強の時間をいただきたい。
- ・事前に評価対象事業に関して、コストの推移、事業内容、成果などについての担当課へのヒアリングを行えるようにすることで、フォーラムの限られた時間を有効に使い、掘り下げた議論ができるようになると思う。

(事業シートについて)

- ・事業シートの記載内容について、抽象的な表現で具体的なイメージがわからないものが散見された。目的と内容（手段）の関係が、かけ離れているものも多くあった。これらについても改善をしていただきたい。
- ・事業シートの様式に関して、コストや業績など数値に関する部分については、3年間の表示ではなく、4年間にした方が良いのではないかと（実績3年間、予定1年間）。
- ・「事業を廃止・休止したときの影響」の記載について、「だれが、どのように（どの程度）困るのか」という形式でまとめてもらった方が、その影響のイメージがわかりやすいと思う。
- ・他市町村との比較も非常に必要と思うが、ただそういう情報に左右されるのではなく、もう一度、小牧市の個性を活かせるまちづくりが大切だと思う。

(判定区分について)

- ・判定区分A～Eのうち、Bの評価視点ア～カについて手直しする必要がある。「改善が必要」の中でも、大きな差異があり、現在の表示方法では、判断しきれない部分がある。

(職員の説明について)

- ・もっと、パワーポイント等の活用をすべきだと思う。
- ・プロジェクターに写している内容が判別しにくいものが多かった。文字や写真を大きくするなどの工夫が必要だと思う。
- ・フォーラムの開催を10月ごろに行うのであれば、当年度も半年以上経過していることであり、最新情報として当年度の状況も説明していただくと、より適切な評価ができると思う。
- ・活動指標、成果指標について、説明者が勉強不足であるため、職員向けの研修の充実を図る必要があると思う。
- ・評価対象事業を他課と連携して実施している場合などは、関連部署の職員を説明者側のオブザーバーとして出席させていただきたい。

(その他)

- ・評価委員を2班に分けたのが良かったのか、それとも事業数を減らして統一でやった方が良かったのか疑問に思う。今回については、問題は開催場所にあった気がする。
- ・外部評価委員会は行政主導の第三者機関だと思うが、市議会の本来機能とも重なるため、議会との兼ね合いや位置づけについて整理しておく必要があるのではないかと。
- ・女性委員が少ないと思う。次回は、12名とし、4名を女性委員にするなど、増員してはどうか。

- ・第1回目ということで、手探りの部分はあったと思う。自分自身も公の場で発言することはあまりないため、模擬評価の際はとても緊張したが、本番は、少々リラックスできた。このような場は1回だけではなく続けていってほしいと思う。
- ・公開フォーラムは、参加市民の方に分かりやすくご説明いただくことが基本だと思う。
- ・出された改善点について、担当課で検討を深めてほしいと思う。
- ・長く続いた事業は「サンセット方式」で終期をひとまず決め、再スタートした方がよいと思う。

IV 外部評価結果

1 模擬外部評価結果

対象事業

	事業名	課名
1	市民四季の森バラ・アジサイまつり開催事業	みどり公園課
2	防災訓練実施事業	防災課
3	市政情報発信事業	秘書広報課
4	花修景推進事業	みどり公園課

事務事業名	1. 市民四季の森バラ・アジサイまつり開催事業			担当課名	みどり公園課
事業概要	バラとアジサイの開花時期にあわせて、平成17年度から実施。 オープニングの2日間には、ステージイベントや緑化木の配布のほか、市民団体との協働による体験型ブースの出展や自然観察会・クイズラリーなどを開催。				
評価結果	A：現状維持 又は充実	B：改善が 必要	C：民間委託 等の検討	D：民間が 実施	E：廃止
	1	2	2	0	0
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・通年での来訪者増に向け、秋季の新事業開催を検討されたい。 ・費用対効果の視点では了としたい。 ・より目玉のあるイベントを実施し、市民参加による事業展開を望む。 ・このようなイベントの数値目標や評価は難しいが、来場者数以外に何か事業の成果を示せるような指標の設定をしてはどうか。 ・会場までの足の確保と他市へのPRも必要と考える。 ・市民参加の推進、団体の育成が必要である。 ・江南の藤、津島の藤みたいに、小牧のバラ、アジサイになるように力を入れるとともに、具体的に実施目的を見直す必要がある。 				

事務事業名	2. 防災訓練実施事業			担当課名	防災課
事業概要	駿河湾から紀伊半島南端を震源域として大規模な地震の発生を想定し、避難誘導、救出救助・応急救護、災害対策本部設置、市民への情報伝達、初期消火などの訓練を防災関係機関や中学校の生徒、地域住民の参加協力を得て毎年実施。 今年度は、桃陵中学校校区で開催。				
評価結果	A：現状維持 又は充実	B：改善が 必要	C：民間委託 等の検討	D：民間が 実施	E：廃止
	1	4	0	0	0
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・現状に甘んじず、向上をしてほしい。コストの面では何とも言えない。 ・防災は重要であるため、拡大化を図るべきである。 ・訓練対象の見直しが必要である。例えば、小学校16校で実施、毎年3中学校区ずつで実施、小牧の弱い地域（川・豪雨）において、集中的に実施するなどの検討をしていただきたい。 ・住民の参加者を拡大すべきである。テキスト（マニュアル）の作成・配布をすべきである。 ・9中学校区で1校区だけの実施では手うすではないか。予算の拡充を図り、東南海地震が発生する率が高いなかで、防災マップ等、災害後のステップ等で理解できるように啓発活動も含めて推進してはどうか。 ・現状ではイベント化してしまっている。現実に即して、全市民が参加できる事業にしていってほしい。 ・救助する側から救助される側（一般の生活市民）にウェイトを置いた防災訓練に転換すべき。 				

事務事業名	3. 市政情報発信事業			担当課名	秘書広報課
事業概要	市ホームページ (H10～)、ケーブルテレビ放送 (H10～)、地上波デジタル放送 (H15～)、携帯電話など、多様な通信媒体を活用し市政情報を提供。 ホームページシステムの管理や、ケーブルテレビへの情報提供など、市政情報を発信するための事務を行う。				
評価結果	A : 現状維持 又は充実	B : 改善が 必要	C : 民間委託 等の検討	D : 民間が 実施	E : 廃止
	3	2	0	0	0
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・市民にとってより分かりやすく、また、情報にかかる市民—行政間の双方向性のシステムを構築・充実できるような対応が望まれる。 ・市民啓蒙に関する情報発信を充実していただきたい。 ・市民と行政とのパイプを考えると、ホームページなどは、広報とは別にこれからの時代に必要な情報源となる。 ・より市政と生活が身近になることを事業目的 (内容) にしていければ、独自性も出る可能性は高いと思う。 ・情報が最新のものであるよう絶えずチェックしていただきたい。 ・市民の啓発も考え、情報内容も明確に、短く表現する。 ・情報提供する事業の目的を明確に表現する。 				

事務事業名	4. 花修景推進事業			担当課名	みどり公園課
事業概要	未利用地となっている道路や河川などの公共空地を利用して、地域住民とともに花を育て、楽しめる花壇整備を行う。 平成 22 年度は久保一色中北緑地をはじめ、4 箇所の花壇整備を行った。				
評価結果	A : 現状維持 又は充実	B : 改善が 必要	C : 民間委託 等の検討	D : 民間が 実施	E : 廃止
	0	4	1	0	0
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・地元希望 (要望) が減少しているため、事業そのものの縮小もやむを得ないが、他方、要望が増えるような取り組みについても考えていくべきではないかと思う。 ・空地利用に限らず「道路美化」の観点から関連部署と連携を密にしていきたい。 ・緑化推進事業に集約したらどうか。花修景は続ける方が良い。ただし、管理は民間よりも行政で行うべきと考える。 ・緑化推進事業とは別に景観なども含んだ推進事業として充実して進めていくとともに、育成管理を中心にした事業も新たに起こし、地域のコミュニケーションも目的とし、市民を巻き込んだ形でも計画していくことが、今後必要だと思う。 ・市が基本方針を明確にし、作業の実態は民間に委託する。 ・市民の集まる場所、市の中心街など、焦点をしぼって、事業を縮小する。利用可能地をむやみに増やす必要はない。 				

2 行政評価市民公開フォーラム結果

対象事業

	事業名	課名		事業名	課名
1	敬老会等運営事業	長寿介護課	11	広報等作成事業	秘書広報課
2	寿学園運営事業	長寿介護課	12	I T教育推進事業(小・中学校)	庶務課
3	平成夏まつり支援事業	生活交流課	13	新エネルギー導入助成事業	環境対策課
4	保健衛生団体助成事業	保健センター	14	市民大学こまきみらい塾運営事業	まなび創造館
5	市民憲章推進事業	生活交流課	15	自主防災体制整備事業	防災課
6	緑化推進事業	みどり公園課	16	防犯対策事業	交通防犯課
7	県管理道路植栽管理委託事業	道路課	17	外国人児童生徒教育推進事業	学校教育課
8	出産奨励手当支給事業	子育て支援課	18	特色ある学校づくり推進事業	学校教育課
9	農業体験事業	農政課	19	ごみ排出抑制事業	廃棄物対策課
10	観光行事開催委託事業	商工課	20	自主文化事業	文化振興課

事務事業名	1. 敬老会等運営事業			担当課名	長寿介護課
事業概要	毎年9月15日（土・日・祝祭日の場合は前日）に敬老会を実施。午前に小牧・北里地区、午後に味岡・篠岡地区に分けて行い、それぞれ式典と余興を開催。 90歳以上の高齢者訪問を実施、祝品を贈るとともに、安否確認を行う。				
評価結果	A：現状維持 又は充実	B：改善が 必要	C：民間委託 等の検討	D：民間が 実施	E：廃止
	0	5	0	0	0
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・今後、高齢者が増加していく中、事業内容・手段の見直しが必要な事業である。 ・事業が開始されたときの老人のイメージと、今の老人のイメージでは大きく違うと思うので、事業の内容（手段）もその変化に合わせた見直しが必要である。 ・敬老会は、参加者の受動的なイベントではなく、自主運営など参加者が積極的に携わり、やりがいや生きがいにつなげる一つの機会となるように企画してはどうか。 ・敬老金等は、将来の支出が多大にならないように、少しずつ年齢を上げていくようにしていただきたい。 ・敬老金について基金等への寄付の受け入れについても検討されたい。 ・金品を贈るより、記念植樹など思いが残るような方法も検討されたい。 ・90歳以上の安否確認をしっかりとっていただきたい。 				

事務事業名	2. 寿学園運営事業			担当課名	長寿介護課
事業概要	昭和36年10月設立。高齢者の近代的教養の向上と心身の健康保持、また福祉増進を図り、市政、交通安全、生活関係の講演や生徒による発表会、プロによる演芸など、年間で11回の定例会と年1回の遠足を実施。				
評価結果	A：現状維持 又は充実	B：改善が 必要	C：民間委託 等の検討	D：民間が 実施	E：廃止
	0	1	2	0	2
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業（高齢者が参加できる講座開催事業）との統廃合も含めて、関連事業の全体的な再編の必要がある。 ・高齢者が年々、増加しているのに、寿学園の生徒数は減っており、成果が上がっていない。事業のマンネリ化、参加者の固定化があるのではないか。一部民間に委託するなど、プログラムの検討をしてはどうか。 ・他の事業（市民大学こまきみらい塾）と連携してはどうか。（統合化） ・教育面については、生涯学習課にまかせ、内容を親睦会にして民間委託を検討してはどうか。 ・交通手段は、巡回バス（無料）の活用も考えてみてはどうか。 ・再構築すべきである。参加者に感動、感激があれば「ロコミ」で拡がる。 ・教養課程という事業内容に変更したほうが、効果がある。 				

事務事業名	3. 平成夏まつり支援事業			担当課名	生活交流課
事業概要	友好都市である八雲町の八雲山車行列を参考に、平成元年から始まった行灯山車まつり。市民や参加団体により組織されている実行委員会により、例年7月の第四土曜、日曜に開催。				
評価結果	A：現状維持 又は充実	B：改善が 必要	C：民間委託 等の検討	D：民間が 実施	E：廃止
	0	3	1	1	0
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・より魅力的なまつりにする工夫や企画内容の見直しが必要である。 ・内容を“小牧風”にする。 ・運営組織の再考、市主導型から、いかに変質させるかが重要である。 ・理想は、行政は裏にまわり、真に民間が中心のまつりにする。そのために運営を担う民間組織（NPO）なども行政がバックになり設立してはどうか。 ・これという目玉をつくり、県、全国に知っていただけるものにするために、企業からの援助やネーミングの変更などを行ってはどうか。 ・事業者からの資金を導入する。 ・一度、「まつりの作り方、運営」について、民間コンサルと協議してはどうか。 ・七夕祭りとの合同による賑わい創出を委託してはどうか。 ・他のまつりを勉強する必要がある。 ・にっぽんど真ん中祭りの流れを引き込んではどうか。 				

事務事業名	4. 保健衛生団体助成事業			担当課名	保健センター
事業概要	市民の健康を守るために、市が委託する事業を円滑に進めるための準備、調整経費として、医師会、歯科医師会、薬剤師会に対し補助金を交付。				
評価結果	A：現状維持 又は充実	B：改善が 必要	C：民間委託 等の検討	D：民間が 実施	E：廃止
	1	2	2	0	0
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・更に事業を拡充し、健康管理のシステム上から漏れる市民へのサービスを充実させてほしい。 ・准看護学校の閉鎖による予算を確保し、他の事業に振替、予防への啓蒙・啓発をより増加してほしい。 ・成果指標と目的の関連が見えない。 ・この事業と健康づくりとの関連を明らかにしてほしい。 ・他市では実施していない事業ということなら、他市の実施していない例を参考にしてほしい。 ・助成金は、医師会等の会議費や資料代などの経費となるはずだから、現在の経費の半分でよいのではないか。 ・保健センターには、市民病院の補助としてサポートして頂きたい。歯だけではなく、子どもの健診に力を入れていただきたく思う。 				

事務事業名	5. 市民憲章推進事業			担当課名	生活交流課
事業概要	<p>市民一人ひとりの力によって住みよいまちづくりができるよう、多くの市民に市民憲章が心の道標として根付くようにしていくため、市民憲章を啓発し、市民憲章の精神に基づいて活動する団体への支援を行う。</p> <p>啓発品の配布・市民憲章幕等の貸出を行い、市民憲章推進団体には協賛を行う。</p>				
評価結果	A：現状維持 又は充実	B：改善が 必要	C：民間委託 等の検討	D：民間が 実施	E：廃止
	0	1	0	0	4
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・唱和や啓発といった推進事業とする必要はないと思う。 ・時代の変化に対応できておらず、単独の事業として成立する事業ではない。 ・事業としては廃止。ただし、憲章自体は存続すべきで、市発行の掲示物への掲載や他の事業の中でこの精神を活かしていけばよい。 ・市民憲章は抽象的で具体性がないので、年度別の指針等をプラスし、セットでアピールするなどの工夫が必要である。 				

事務事業名	6. 緑化推進事業			担当課名	みどり公園課
事業概要	<p>市民の緑化意識の高揚と市民自らによる緑化推進を促す。</p> <p>緑化推進協議会に事業を委託し、緑化木の配布、緑の教室などを行っている。</p> <p>みどりの少年団活動の支援や、民有地の生垣や屋上緑化などの緑化事業に対し補助を行っている。</p>				
評価結果	A：現状維持 又は充実	B：改善が 必要	C：民間委託 等の検討	D：民間が 実施	E：廃止
	0	5	0	0	0
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業そのものの必要性は認められる。ただし、手段の見直しが求められる。 ・市民啓蒙の強化、次世代の緑化意識の向上、関係部署との連携協働の強化を図る。 ・花修景推進事業との一元化により事業の拡大化を図っていく必要がある。ハードとソフトのバランスの取れた積極的なアクションが要求される。 ・全体、長期プランを立案、目標を設定して地道に進めるのが良いのではないかと。モデル地区の設定などもしてはどうか。 ・美しいまちづくりは短期で考えられないので、長い期間の中でスタッフの質や専門的で柔軟な考え方も検討していく事が大切などである。 				

事務事業名	7. 県管理道路植栽管理委託事業			担当課名	道路課
事業概要	市内の県道の5路線、7,300mについて、植栽管理に加え除草回数を県基準の年2回から4回増やし年6回実施することにより景観のよい道路とする。				
評価結果	A：現状維持 又は充実	B：改善が 必要	C：民間委託 等の検討	D：民間が 実施	E：廃止
	0	4	1	0	0
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・他事業との統合などが可能かどうか検討していただきたい。 ・花修景、緑化推進、ゴミの散乱とも関係があるので、関係部署との密なる連携のもとに、方向を明確にして取り組むべきである。 ・道路植栽について事業を改善する方向で、地域の実態について住民の意向も聞いてみるのもひとつではないでしょうか。 ・将来的には、県に戻す。 ・北外山の新しい道路では中央分離帯がコンクリート仕上げで、植栽はない。中央分離帯の植栽は撤去、改善すべきではないか。 ・環境の為に継続が必要である。限られた予算の中で公共入札することにより1回当りの費用単価を下げ、6回を7回にすることも可能ではないか。コスト削減を求める。 ・市民の協力をいかに得て行うかが重要である。 				

事務事業名	8. 出産奨励手当支給事業			担当課名	子育て支援課
事業概要	<p>出産を奨励するため、出産に伴う費用負担の軽減を図る。</p> <p>以下の支給要件を満たす市民に対し、支給対象児1人につき、20万円を支給。</p> <p>①出生順に第3番目以降の出生児を含む3人以上の児童を養育していること。</p> <p>②その世帯の生活の根拠が小牧市にあること。</p> <p>③支給対象児出生前に1年以上引き続き小牧市の住民基本台帳に記載され、または外国人登録原票に登録されていること。</p>				
評価結果	A：現状維持 又は充実	B：改善が 必要	C：民間委託 等の検討	D：民間が 実施	E：廃止
	5	0	0	0	0
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・出産奨励手当に関しては、現状維持でよいと思う。ただし、「児童の健全育成」「少子化対策」を図るならば、出産奨励手当に加え、他事業との重層的な取り組み（保健センター等と連携した「母親教室」の実施等）を充実してほしい。 ・少子高齢化に伴い、この事業の意義は大きい。 ・大きな金額を受け取るので、市が支援に力を入れていることを意識してもらう必要がある。 ・現状はこれで良いと思いますが、将来的には少子化対策、子育て支援策として、出産から子育て支援に至る事業と見直すことも必要と思う。 ・支援としては手当の支給よりは、施設の充実、体制の強化が大切ではないか。 ・受益者への公平性を保つため、児童手当と同様に出生の実数をしっかり把握し、対象者全員に給付することが必要と思う。支給方法の見直しが必要である。 				

事務事業名	9. 農業体験事業			担当課名	農政課
事業概要	多くの市民に農作業に触れる場所や機会を提供する。 農園での実習のほか、室内講義では、生育のしくみや病気、農薬等の基本的知識を学習する。春夏・秋冬の2コース開催。				
評価結果	A : 現状維持 又は充実	B : 改善が 必要	C : 民間委託 等の検討	D : 民間が 実施	E : 廃止
	0	3	0	0	2
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・農業を楽しむ事業として今後継続すれば良いのではないかと考える。それ以上の費用対効果は期待しない方が良く考える。 ・体験や習熟の中で環境を考え、担当課は将来に向けて、農法をよく理解したうえで、事業を推進していただきたい。 ・当面は農業に興味のある市民の家庭菜園を対象とした事業展開としてはどうか。 ・将来の担い手育成の為に、農業経営のあり方を見極め、休耕地の活用、若手に期待して、農業の企業化などを考えることも必要ではないか。 ・現在の農業体験そのものは、興味関心のある方へのものと考えられる。興味関心のある方に対しては、生涯学習などを通じて行うことも可能ではないか。 ・現在、農業に従事している方たちへの支援も必要である。 ・若い人に対しPRを行いながら、将来の担い手育成事業を行って欲しい。 ・集約化（工場化）して採算性も考えた取り組みとすべきである。 ・食育を目的とした事業を考えることも加える。 				

事務事業名	10. 観光行事開催委託事業			担当課名	商工課
事業概要	小牧山の四季に合わせ、小牧山の良さをPRできる歴史と文化の調和のとれた観光事業の開催を委託。				
評価結果	A : 現状維持 又は充実	B : 改善が 必要	C : 民間委託 等の検討	D : 民間が 実施	E : 廃止
	1	1	3	0	0
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・小牧の観光対象がたくさんある中でインパクトをどこへ持って行くかと考え絞っていく必要がある。まず、市民が小牧を意欲を持って知る事が必要である。それから外へ発信すれば良いと思う。 ・小牧の魅力づくりが先決、新しい魅力を引き出し高めるための改善が必要である。 ・第三者の評価検討を行うことも必要ではないかと思う。 ・小牧山の観光事業自体の見直しも必要であると思う。 ・小牧市観光協会の自主独立化・強化を図ることが有効であると思う。 ・観光事業全部の民間委託も視野に入れて検討することも望まれる。 ・小牧山にこだわらず、幅広く捉えた上に観光事業を考えるべきである。 ・小牧山の良さをPRするのに、歴史と文化を切り離して歴史・郷土芸能は、重要なので部門を置いて、観光としての文化事業は、小牧市観光協会の自主運営にし、民間の活用も期待する。 				

事務事業名	11. 広報等作成事業			担当課名	秘書広報課
事業概要	政策・事業・サービスなどの情報を的確に市民に発信し、市政に対する理解と信頼を深め、市政運営を円滑に進めることを目的に実施。 『広報こまき』や『暮らしのカレンダー』などを作成し、市民に市政情報を提供。				
評価結果	A：現状維持 又は充実	B：改善が 必要	C：民間委託 等の検討	D：民間が 実施	E：廃止
	2	1	2	0	0
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・現状としては、「広報こまき」は、読み易く、満足している。今後も、常に改善の心を失わずに取り組んでほしい。 ・より多くの市民に読んでもらえるよう、今回の外部評価委員からの提案なども参考に紙面づくりを工夫されたい。 ・市政トップの意向は、行政広報紙の枠を踏み出さない範囲で掲載するページを設けることを検討されたい。 ・子供向けの記事など紙面構成の再考をしていただきたい ・市民の知恵を活用したり、民間への委託を推進すべき。 ・市民編集委員等、一般市民がフリーに参加、企画できるページの検討をしていただきたい。 ・様々な伝達手段（紙、ICT）を活用し、トータルな広報戦略をつくるべき。 ・効果とコストの関係を明確にしていきたい。 ・公共施設での設置は、ラミネートで加工すれば、1部の設置でOKかと思う。 ・他の事業費になるが、広報紙の配送代の削減に努められたい。 				

事務事業名	12. IT教育推進事業（小学校・中学校）			担当課名	庶務課
事業概要	児童・生徒が授業で使用するパソコンや教職員が校務で使用するパソコンをリースにより整備し、そのサポート保守を実施。校内LANや教育委員会、小学校16校、中学校9校、3給食センターを結ぶ教育ネットワークのサポート保守を実施。				
評価結果	A：現状維持 又は充実	B：改善が 必要	C：民間委託 等の検討	D：民間が 実施	E：廃止
	0	4	0	0	1
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・IT教育そのものの目指す理念やスキル習得の目標レベルを明確に意識した上で、ハード面整備を行う必要がある。 ・この事業によるスキル習得の目標レベルの設定や教育の成果のデータなど、目標や成果を数値化し、評価に結びつける必要がある。 ・このシートからは、事業名が「IT機器推進事業」の方が良いのではないかと思う。 ・ICT技術の変化にどのように対応していくのか計画が見えない。 ・リース6年は長すぎないか。 ・教育委員会は、閉鎖的に感じる。 ・IT教育は興味がある子のみでよく、中学校からでも遅くはないのではないか。 ・費用の削減をしてほしい。なお、実際の運用は小・中学校であるが、ハードを担当する庶務課とも目指すべきものを共有するなど、連携していく必要がある。 				

事務事業名	13. 新エネルギー導入助成事業			担当課名	環境対策課
事業概要	市民の環境にやさしいエネルギーの利用を支援し、循環型社会の形成に向けて市民意識の高揚を図ることを目的に、新エネルギー導入事業として環境負荷の少ない住宅用太陽光発電システムと住宅用太陽熱高度利用システムについて補助を実施。				
評価結果	A：現状維持 又は充実	B：改善が 必要	C：民間委託 等の検討	D：民間が 実施	E：廃止
	1	4	0	0	0
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> 時代の要請として、太陽エネルギー活用が促進される場所である。それに対しての補助金は、税金使用の公平性を考慮しつつ、できる限り進めて欲しい。 必要な事業であると思うが、予算には限界があるので、予算と効果のバランスを見ながら今後どこまで実施するのか検討が必要である。 受益者とのバランスでの明確な目標（5年、10年先）、指標を設定して欲しい。 風力や水力など、他の自然再生エネルギーシステムに対する補助も併用して導入してはどうか。 CO2削減効果をデータで表示してほしい。 受益の公平性から、個人助成とともに公共施設への導入を進められたい。 				

事務事業名	14. 市民大学こまきみらい塾運営事業			担当課名	まなび創造館
事業概要	男女共同参画社会の形成に向け、教養課程・専門課程・テーマ学習コース・公開講座など男女の意識改革と個性や能力の活かされる人材育成を目的とした学習の機会として講座を開催。				
評価結果	A：現状維持 又は充実	B：改善が 必要	C：民間委託 等の検討	D：民間が 実施	E：廃止
	1	1	1	1	1
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> 「男女共同参画」をベースとした展開も、発足10年を経た現在、新しい視点からテーマ設定の時期ではないか。 男女共同参画にこだわり、狭き門すぎる。柔軟な対応を求めます。 受講者の年齢層（平均年齢63歳）から、寿学園との運営上、組織上の再検討をしてはどうか。 講座開催事業については、長寿介護課、生涯学習課など、他課との連携の中で統合等を含め、幅広く（年齢、性別）多くの講座を進めていただきたい。 幅広い年齢が参加できる魅力的なプログラムを提供していくべきである。 若者や男性も参加しやすい講座にして欲しい。 いかにPRするかを考え、実行して欲しい。 講座の企画・運営を民間（NPOなど）に委託したらどうか。 講師も地元、市民などを活用したり、地元の大学ともっとタイアップしたらどうか。 講座内容の見直しをして頂きたい。マナー講座や美しい言葉使いなど年齢関係なく楽しめる講座とすべきである。 				

事務事業名	15. 自主防災体制整備事業			担当課名	防災課
事業概要	火災の初期消火のために、市内全域に4,315本の街頭消火器を設置。月1回の街頭消火器外観点検を自主防災会へ委託し、点検委託料を年度末に支払い。 業者委託により、8年経過の消火器を更新。				
評価結果	A：現状維持 又は充実	B：改善が 必要	C：民間委託 等の検討	D：民間が 実施	E：廃止
	0	4	0	0	1
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・自主防災会の力を強くする方法や住民の防災のための共助、自助能力をアップする方法を検討すべきである。 ・点検委託料を廃止して、効果的な他の方法に振り向けるべきである。 ・10軒に1基設置に対する、点検の委託料が1,050円/基であれば、受益者の負担、1軒当たり負担は、105円で済むのではないか。 ・防災体制の更なる整備に向けて、東日本大震災での防災意識が高い今こそ、全体的な見直しをし、再構築をすべし。 ・事業内容から判断すると、事業名を「防災体制事業」から「消火器設置整備事業」に変更すべきである。 ・現在の自主防災会が、災害の際に本当に機能するのか疑問であり、それを検証して欲しい。 				

事務事業名	16. 防犯対策事業			担当課名	交通防犯課
事業概要	市民が安全で安心して生活ができるように、市民による自主防犯パトロール隊の立ち上げや活動の支援。 夜間の路上等の犯罪を未然に防止するため、防犯灯の設置と維持管理への補助。				
評価結果	A：現状維持 又は充実	B：改善が 必要	C：民間委託 等の検討	D：民間が 実施	E：廃止
	1	4	0	0	0
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・現在の取り組みそのものについては評価できる。ただし、防犯パトロール未発足区に対する取り組みをしっかりと行うことや、防犯灯設置を計画的に進めることが求められていると考える。 ・あいさつ、地域の目を育てるコミュニティ形成の対応と地域力を形成することが主眼であり、パトロールは緊急避難的対策だと思う。 ・小学校通学隊に対する補助、防犯ブザー補助などについても善処を求めたい。 ・必ず数値目標を持って進めていただきたい。 ・パトロール隊の結成は、犯罪件数減少の即対応策として効果が有り継続すべきである。 ・防犯に対する知識や情報をきめ細かく地域の市民に意識してもらう為の講座に、市民がより参加してもらえる事を希望する。 ・防犯灯設置は行政としてもその早期拡充に努めてほしい。 ・防犯対策は「地域の和、連携」が肝要。その為に町内組織の充実を図ってほしい。 ・絶えず実態把握、レベルアップを図ってほしい。 				

事務事業名	17. 外国人児童生徒教育推進事業	担当課名	学校教育課		
事業概要	ポルトガル語・スペイン語・タガログ語・中国語の語学相談員が小・中学校を巡回して、授業内容の理解の支援、通知表等の翻訳、保護者との懇談時の通訳などを実施。平成 22 年度からは、日本語のわからない外国人児童生徒に集中的に日本語や学校生活の初期指導を行う「にじっこ教室」を開設。				
評価結果	A : 現状維持 又は充実	B : 改善が 必要	C : 民間委託 等の検討	D : 民間が 実施	E : 廃止
	5	0	0	0	0
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業内容については評価できるが、①語学相談員の人員増加を図ることのほか、②語学能力のある教員の採用に向けた対策を今後も継続的に進めていただきたい。 ・ボランティアグループとの連携、企業連携についても検討していただきたい。 ・小牧市が先進市であってほしい。子どもたちが母国へ帰ることも考えると日本の国際信頼の問題でもある。「日本の思いやり」は、何物にも変え難いものである。 ・早急に拠点を新設して、地域別に集約する必要もあると考える。 ・未就学児童の登校の働きかけをより進めるべきである。 ・将来的には、経済動向（企業の拡大、縮小、外国人の定住化、地元企業の市としての育成等）との関連で、今後のあり方につき再考が必要(外国人専門学校設立など)。 				

事務事業名	18. 特色ある学校づくり推進事業	担当課名	学校教育課		
事業概要	校長の裁量権を拡大することで、その教育方針に基づく特色ある教育活動の展開を可能にし、多様で柔軟な子どもの個性を伸ばすとともに、地域の特性や人材を活かして主体的に創意工夫をこらした教育活動を実施。				
評価結果	A : 現状維持 又は充実	B : 改善が 必要	C : 民間委託 等の検討	D : 民間が 実施	E : 廃止
	3	2	0	0	0
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・地域連携が進展し、地域に開かれた学校として目に見える形となるように、より一層の充実を求める。 ・校長の裁量権も良いが、ランダムな企画での評価は平等性を欠くこともあるのではないかと。市として学校教育の場で情報・成果の共有を図り、学力等底上げの為に、何年か毎に 25 校統一テーマで、企画・成果の検証も良いのではないかと。そうすれば、校長、区長が代わっても作業は継続できるのではないかと。 ・学力低下、子供たちの負担とならないよう配慮も大切かと思う。 ・更なる地域とのコミュニケーションを図り、地域と学校が一体になれる環境づくり（地域と学校との定期的な情報交換の場等）を行う必要がある。 ・負担感があるのなら、対象校を絞り、毎年でない形で実施し、他の育成に費用を使う方法を検討してほしい。 ・グローバルに向けた将来の人材育成、子どもたちの人間形成に向けた事業として大切と考えるので、充実を図りつつ、継続して頂きたい。 ・審査の公平性を担保するため、現職校長が審査委員に入っていることについて検討が必要。 				

事務事業名	19. ごみ排出抑制事業			担当課名	廃棄物対策課
事業概要	生ごみの堆肥化の促進、資源回収活動の活性化により、燃やすごみの減量化や古紙等の資源回収量の増大を図る。				
評価結果	A : 現状維持 又は充実	B : 改善が 必要	C : 民間委託 等の検討	D : 民間が 実施	E : 廃止
	4	1	0	0	0
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・ごみ排出抑制事業は、環境の事を考えると継続して、市民に周知促進する必要がある。個々の市民が真剣に考えていく事が責務と思う。ごみ処理の方向を考えるより、出さない様な手段を講ずる為にも抑制する事が当面の課題である。 ・生ゴミ堆肥化や自家処理の推進は徐々に達成されてきているが、実状を調査してより良い方法を検討してほしい。 ・資源回収団体への奨励金については、補助の割増しも考慮して、継続が必要である。 ・市民一人ひとりの努力を引き出すための市民啓蒙の強化をすべきである。 ・生ごみコンポストの無償供与もあるので、利用実態を実査して、税の無駄使いにならないように努めてほしい。 				

事務事業名	20. 自主文化事業			担当課名	文化振興課
事業概要	昭和50年代から継続実施。 市民会館・各市民センターで、身近で気軽に、質の高い文化芸術鑑賞ができるよう、クラシック、子ども向け、落語など様々なジャンルの公演を実施。				
評価結果	A : 現状維持 又は充実	B : 改善が 必要	C : 民間委託 等の検討	D : 民間が 実施	E : 廃止
	0	3	2	0	0
	判定理由、改善案等				
	<ul style="list-style-type: none"> ・事業選定等に関し、市民の意見をなるべく反映した形で行えるようなシステムの構築を検討してほしい。 ・市で行うことのメリットも必ずあるはずなので、指定管理者の利用などを安易に考えず、しっかりやってもらいたい。 ・若年層から高齢者までの広いジャンル別に行っていくことが良いのではないか。レパートリーも広く取り、より多くの入場者をのぞむ事から考えると市が中心として実施していく事がのぞまれる。 ・学校等との連携を強め、子どもたちが文化芸術に触れる機会を増やすべきである。 ・市として各層の市民団体等との連携により、今後の市の文化、芸術の発展を目指した方向を明示、事業展開は民間に委託する。 ・若年層の参加に力を入れてほしい。 				